



第2回地域SNS全国フォーラム

セッション 2-3

「融合するコミュニティの基盤－地域SNSと地域通貨の未来」

「地域通貨」とその動向

2008.2.29 徳留 佳之

E-Mail mail@tokuto.net

URL <http://cc-pr.net/list/>

1. 地域通貨とは？

コミュニティ・ボランティア・地域経済などの活性化のために
一定の地域やコミュニティにおいて自主的に発行するお金
〔別名：コミュニティ通貨・市民通貨・補完通貨・並行通貨〕

2. そもそも通貨とは？ 一通貨の機能

- ①価値の尺度 (評価機能)
 - ②交換の媒体 (交換機能)
 - ③価値の保存 (蓄積機能) 以上が「通貨の3大機能」
 - ④価値の増殖 (利子・複利の発明により付加された機能)
- 地域通貨は①と②のみ。③は時間通貨にあり。④は排除。

3. 法定通貨と地域通貨の比較

① 外部通貨	VS	内部通貨
② 中央銀行発行通貨	VS	自由発行通貨
③ 市場経済通貨	VS	非市場経済通貨
④ 利子あり通貨	VS	利子なし通貨
⑤ 競争促進通貨	VS	共創(協働)促進通貨
⑥ 貧富拡大通貨	VS	平等通貨
⑦ ゼロサム通貨	VS	プラスサム通貨
⑧ 縁切り通貨	VS	縁結び通貨
⑨ 信用通貨	VS	信頼通貨
⑩ 匿名通貨	VS	顔が見える通貨
⑪ 自己喪失通貨	VS	自己発見通貨
⑫ 「陽」の通貨	VS	「陰」の通貨

4. 地域通貨の分類

◆発行形態による分類

- ①紙幣・チップタイプ
- ②借用証書タイプ (WAT)
- ③通帳タイプ
- ④口座タイプ

◆目的による分類

- ①コミュニティ志向型
- ②プロジェクト志向型
- ③経済循環志向型

◆仕組みによる分類

- ①スタンプ貨幣・カレンダー貨幣
- ②LETS (多角間バーター取引)
- ③コミュニティ・ウェイ
- ④エコマネー

◆尺度による分類

- ①「円」本位制
- ②「時間」本位制 (時間通貨)
- ③「モノ」本位制
(炭・わらび・ゆず)

5. 地域通貨の両義性 (パラドックス)

1. どこでも何にでも使えると便利なのに、限られた場所・物でしか使えない
＜お金のようにあってお金でない!!＞
2. 市民主導が望ましいのに、行政の援助がないと成り立ちにくい
＜法定通貨が必要ない取引を目指しているのに、法定通貨も必要＞
※補助金をもらって運営している地域通貨は意外に多い
3. 関係性を作るツールなのに、関係が深まると必要性が弱まる
＜地域通貨の理想は、地域通貨が不要なこと?!＞
※仲間うちだけでなく、絶えず新しい人を迎え入れることが重要
4. 性善説に基づくため、規模が大きくなるとフリーライダーが出やすい
＜市場原理批判にはなっても、対抗原理としての制度設計は困難?＞

6. 地域通貨限界説？！

地域通貨の推定稼働率は下がり、
実際に地域通貨をテーマとしたNPO法人も相次ぎ解散。
しかし、ブームは去ってからが本番！
新地域通貨も少なからず生まれ、継続的成功例もある。
結局は関係性の創出＝ソーシャルキャピタルこそが成果

また、継続は力なり、とくにインフレになると威力を発揮
＝セーフティネットとしての地域通貨

先進国では「補完通貨」＝コミュニティ&地域経済の活性化
途上国では「代替通貨」＝インフレ時に価値を維持できる

7. 地域通貨成功の条件

1. 明確なテーマ・ビジョンの共有・・・・・・・・・・天
2. 魅力的な人・リーダーシップ・・・・・・・・・・人
3. 関係性・場づくり・・・・・・・・・・地

＋ 地域のオリジナリティ・アイデア・遊び心

＝ソーシャル・キャピタル (社会関係資本) の創出・循環
地域経済の活性化も、それがあってこそ成し得る

事例① ラブス／神奈川県大和市

2002年4月に開始。2007年11月で終了。単位「ラブ」
行政主導のICカード地域通貨として注目（利用可能者8万人）
システムの使い勝手が悪く、行政と市民の協働もかみ合わず

しかし、これを契機に市内に3つの「ラブ」が生まれる
→「つきみのラブ・にぎわいラブ・さくらぶ」

運営受託していた NPO法人ラブス・サポートセンターは、
エリア・マネジメントをコンセプトに「まちのコンシェルジュ事業」
を行う NPO法人eーデザイン大和 に衣替え

事例② まちだ大福帳／東京都町田市

2001年11月に通帳型で開始。単位「花」。約100人で継続中
紙券「花券」も併用し、現在でも10店舗程度で使われている
自己責任で毎月1%ずつ減価

※町田市では、これとは別に、2005年8～11月に市による地域通貨活用
商店街活性化モデル事業実施。まちだ大福帳も参加するがかみ合わず。
また、2007年12月から町田市商店会連合会がPASMO利用の「すき・ま
ちPOINT」開始するが、1300店舗中43店舗のみで、電車にも使えず。

市民活動を地域通貨でつなぎ、さらに新たな活動も生まれる

- ・花壇サークル (駅前の美化)
- ・花たんぼ (自然農で米作り)
- ・町田でドキュメンタリー映画を上映する会

事例③ アースデイマネー／東京都渋谷区

2001年10月に非会員制紙券型(裏書無)で開始。単位「r」
携帯使用の口座型。若者中心で遊び心をもって展開
主催イベント・提携プロジェクトでもらえ、ガチャで寄付も

提携プロジェクトには、年上限50万rを発行し支援
シブカサ、シブハナ、東京油田開発、音の羽根ほか計27あり

80近い店のほか、2つの地域通貨とも相互交換できる

コンセプト・入口&出口が明解で、成長が期待できる

事例④ イ・タッチ／横浜市栄区

2006年9～12月に紙券型（裏書きあり）で相互扶助のため
「敬老のつどい」ボランティアに400枚発行（第1次実験）

2007年7～11月に地域経済活性化に力点を変え発行。
1800枚＝18万円分発行（第2次実験）

2008年2月にフェアトレードイベントで商品購入者にフェア
トレードカレー割引券などとして配布（第2.5次実験）

「たすけあいの地産地消」という言い方で、
意欲的にさまざまな試みを展開中

事例⑤ たま／川崎市多摩区

NPO法人ぐらす・かわさが市主催の川崎市たまフォーラムに提案、事業採用され2007年10月から会員制紙券型で開始

30近い商店のほか、日本民家園と岡本太郎美術館の入館料として2割使える。単位「たま」。1年間だがその後も継続予定

出会い・つながりが増えつつあることを実感中

無償の習慣に地域通貨が入り戸惑いも

HP作ボランティアグループの存在は大 (店HPを地域通貨で)

終わりにー地域SNSにおける地域通貨

1. エコポイントには向いている
2. 企業ポイント・電子マネーとの相互乗り入れは要注意
(法定通貨と変わらなくなる危険性)
3. ポイント減価が構築しやすくなる
(回転率が上げられ利用促進になる)
4. 地域通貨添付による「見える化」も技術的クリアを期待
(見えないポイントではなく、見える地域通貨を)
5. i-WATが使いやすくなるとSNSに限らずネットで使える
(WATは個人が自由に発行できる借用証書型地域通貨)